

## JR 西日本「脱線事故」

写真は JR 西日本の神戸線で兵庫から新長田に向かって走っている風景である。先頭列車の運転席の横の窓から撮ったものだ。前にレポートにも書いたように、関西方面に出かけるときは JR で長田まで行き、震災後の街を歩いている。まっすぐの線路をかなりのスピードで運転しているのが、窓から見ても実感できる。



1 週間前の今頃、JR 福知山線(宝塚線)の塚口と尼崎間で、宝塚発同志社前行きの快速電車が脱線し、107 人の死亡が確認され、負傷者は 460 人を数えた。月曜日の朝であり、亡くなった人は若い人や中年層、サラリーマンや学生が多い。同志社や京都女子大、大阪市大などの学生たちであり、とりわけ 1 ヶ月前に入学したばかりの学生の死を想うと、やりきれない気持ちになる。朝日新聞によると、大阪市大 1 年の学生は高校時代は野球部主将であり、正義感が強く、「悪を取り締まる仕事が夢だった」という。

JR になって最悪の重大事故の原因はなにか。伝えられるところによると、制限速度を 30 ㎞/h 余りもオーバーして運転して、高速でカーブに入り、急ブレーキをかけて「横転」したことなどが原因とされる。23 歳の運転士も亡くなっており、原因解明は長期化するものと思われる。国土交通省の航空・鉄道事故調査委員会も、「経験のない極めて特異な事故」としている。

問題はなぜスピードをあげて運転したのかである。手前の伊丹駅でオーバーランして、その遅れを取り戻そうとしたとされる。また、「私鉄王国」のなかでの JR 西日本の「競争優先」の体質、安全軽視や職員の人権無視の姿勢などの問題が指摘されている。国鉄の分割民営化から 18 年が経ち、これまで民営化の「光」ばかりが目目されてきたが、今回の痛ましい事故についても、民営化の「影」に焦点をあてて考えていく必要があるのではないか。鉄道員に憧れてきた者として、今後の動向から目が離せない。

(5月2日 記)